

都立 第五福竜丸展示館ニュース

2017.05.01  
No.399

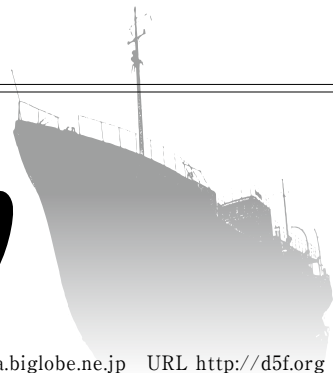
(5・6月号)

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会

連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail: fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL <http://d5f.org>

# 福竜丸だより



写真左上・八丈島からの修学旅行の中学生、翌日は広島へ。右上・「21世紀を平和の世紀に」との八重紅大島桜の下で。左下・工作教室（記事8めん）、右下・展示館前ひろばで滋賀の中学生。



## 核の惨禍を伝えつづける 船とともに

春の訪れとともに修学旅行の季節が到来しました。四月下旬から生徒たちのにぎやかな見学風景、ボランティアガイドの説明に熱心に耳を傾ける光景、展示に見入る眼差し、船が残されたからこそ人びとがずっと伝えることができると――半世紀前に船を守ろうとしたその願いと希望を今いる私たちは、どのように次代に伝えられるだろうか、思いを巡らせながら第五福竜丸建造七〇年の次の企画展「この船をつくる」の準備がすすみます。会期は六月一七日から一〇月九日まで（紹介記事2・3めん）。

\*

核兵器禁止条約の締結に向けての国連の会議が、三月に続き六月中旬から七月にかけて開催されます。この会議の開催を主導した非核国政府と市民の運動は、核兵器がいったん使われればその被害の影響は国レベルを越え、救援も不可能かつ被害は長く続く非人道のきわみであり、との声を上げました。

こうした主張が国連で多数になることへの被爆者の果たした役割を改めて思います。七〇年代後半、被爆問題国際シンポジウム、国連軍縮特別総会、反核世論と運動の高揚などを契機に被爆者は世界に被爆体験を携えて遊説しました。被爆医師・肥田舜太郎さんも八〇年代初めにヨーロッパをまわり核兵器のむごい破壊のさまを伝えました。肥田さんは、二八歳で広島で被爆、軍医として多くの市民が不可解な死をとげる、破壊力のすさまじさと放射線の影響。戦後は被爆者医療に献身し、去る三月、百歳の生涯を終えました。

被爆者と支える人びとの行動、それを正面から受け止める人びとは心をゆさぶられ、非核国は核大国を相手に真つ当な主張を堂々と展開しています。保有国は頑なに拒みつづけるでしょうが、被爆者と心をつなぎながら第五福竜丸も航海をつづけていきます。

# 大湊の船大工に聞く 木造船と匠の技

第五福竜丸建造七〇年「古稀」を記念した企画展第二弾は、『この船をつくろうー船大工匠の技』です（六月一七日〜一〇月九日）。一九五六年に福竜丸の水産大学練習船「はやぶさ丸」への改修を請け負った三重県伊勢市大湊町の旧・強力造船所を訪ねました。当時「はやぶさ丸」の図面を引いた船大工・設計士の木村九一さんと、工場長の吉岡雄毅さんにお話を伺いました。船を造る工程をたどります。

## 造船の町

大湊は伊勢湾に面し、宮川・五十鈴川の三角州に位置する造船の町です。安土桃山時代から船造りが栄え、造船所や「船釘（フナクギ）」の工場、問屋、鉄工所などが軒を連ねました。

福竜丸を改造した強力造船所は大湊で戦前から戦後にかけて造船業を営み、一九六一年に鋼鉄船に切り替えるまで木造船を手掛けてきました。

## 木造船から鋼鉄船へ

船大工であり、木造船の設

信と誇りがあったと当時を振り返り木造船に賭けていた熱意を語ってくれました。

## 貴重な木造船

しかし現在では第五福竜丸のように産業のための洋型木造船（第五福竜丸は箱型の和船とは異なり、背骨に当たる竜骨（キール）を持つ洋型船）は繊維強化プラスチック（FRP）製や鋼鉄製に移り変わり、その姿を消しました。

各地にわずかに残る船大工も、地域の伝統工芸や文化の継承の一環として和船や地域性のある船造りに取り組むのみとなり、船大工の技も失われつつあります。



右・木村さん、左・吉岡さん

## のみななどの船大工道具



木村さん、吉岡さんのお話から、大湊の木造船建造の過程をたどります。

## 木造船を造る①設計

造船の手順はまず設計士が一般配置図や中央横断面図と呼ばれる船の構造を示した図面と、船体の形状を示した線図を引きます。

設計士は図面を工場に回す前に実際にどれほどの魚が船に積めるのか、喫水線がどの位置に来るのかを確かめるため三〇分の一程度の模型を作製します。第五福竜丸展示館で所蔵している骨格模型（外板を張る前の骨組みの状態の船の模型）は木村さんの製作です。

## 木造船を造る②木材

設計士が書いた図面をもとに、棟梁が必要となる木材を計算し調達します。強力造船所では木曾や宮崎の飢肥地方など全国各地から木材を調達していました。杉、檜、樺など様々な木がありますが、適材適所、船の各部分に適した木材を選びます。

木材は乾燥による割れを防ぐために貯木場で水に漬けた状態で管理しています。そうすることで選別や運搬が容易になり、乾燥しやすくなるそうです。

## 木造船を造る③組み立て

三〇分の一ほどの縮尺で書かれた図面を実物大に引き延ばしたものを現図と呼びます。現図は木材に墨で書かれ、これをもとに各部品を削り出します。

船の背骨に当たる竜骨を置き、船首材、船尾材を置き、次に肋骨をボルトで固定しますが、船の前後は斜肋骨と呼ばれ、竜骨に対して木材を斜めに取り付ける必要があります（3めんにつづく）

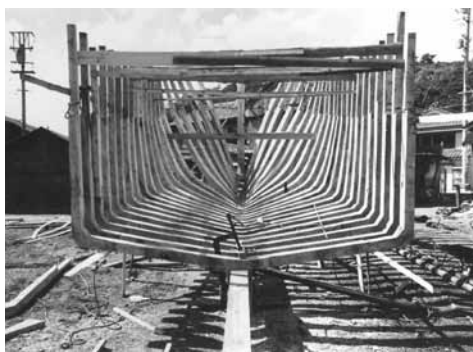
るため一流の木工でなければ出来ないそうです。

一本の肋骨で五〜六本の木材を使い、湾曲した部分には湾曲した木材をあてがいます。規模の大きな船は二材肋骨と言いい本の肋骨を合わせて強度を強くする必要があります。

次に甲板の下部にあたる甲板梁を取り付けます。

#### 木造船を造る④外板

骨組みが完成し内張板(うちばり)など船内部の工程が済むと外板を取り付けます。外板は「蒸曲げ」と呼ばれる特殊な技法で曲げます。これ



木造船の肋骨と甲板梁。三重県水産試験場提供

は、蒸気で長時間蒸して柔らかくして曲げながら船体の曲線に合わせて打ち付けていきます。

木村さんは蒸曲げについて「急いで張らないと冷めて割れてしまう上、そう簡単に曲がるものではありません。六センチほどの厚さの板を六〜七人で担いで両脇から競うように打ち付けました。蒸した板はとても熱く、つらい仕事でした」と語っていました。

#### 木造船を造る⑤防水加工

外板が張られ、甲板がつけられると船としての形が見えてきます。外板の板と板との隙間から浸水を防ぐため「マキハダ」という檜の皮を叩いて繊維状にしたものを詰めます。マキハダは水を吸うと膨張し隙間を完全に塞ぎます。

水密加工が完了すると、実際に船を水面に浮かべても浸水しないか確かめるため、船内に水を満たします(「水張り」)。ポンプのない時代、人力でこれを行うのは非常に労力のかかる作業ですが、大湊では主に女性が行っていたそうです

一九八五年福竜丸補修工事での蒸曲げの様子



#### 木造船を造る⑥検査

漁船は必ず二つの機関で承認を受けなければなりません。一つは水産庁で、漁船としての登録をします。もう一つは運輸省で、安全面の検査が行われます。「水張り」も運輸省の役人の立会いのものと行われました。法制度が変わった現在でもこうした検査は行われています。

#### 木造船を造る⑦進水

進水式は造船所や発注元の会社(船主)、親類縁者など

あらゆる関係者が集まり盛大に行われます。船と岸の両側から紅白の餅が巻かれ地域の子どもたちの楽しみでもあります。

進水は船体を初めて水面に浮かべる段階であり、船の完成ではありません。進水後、船橋を建て、エンジンや、漁に必要な機械類を取り付ける「機装」を行います。それが済むと試運転を行い竣工となります。

#### 木造船を造る⑧儀礼

船が建造されるまでにはいくつかの神事が行われます。特に漁師たちの命を乗せて漁

に出る漁船の建造では、大漁と安全を祈願していくつもの願掛けが行われます。

例えば竜骨が立つと、神主を呼んで起工式が行われます。進水式同様大勢の関係者が参列し建造の無事を祈りました。

進水式の前日深夜には「船霊(フナダマ)入れ」が行われます。このような儀礼には、それぞれの地域により慣習が異なりますが、棟梁が羽織袴で一人で祈りを捧げ、岸に船を縛り付ける「もやえ柱」に人形の紙やお札など「船霊様」守神を埋め込みます。航海の安全を祈る、まさに船に魂を入れる神事です。

\*

企画展示「この船をつくる―船大工匠の技」は、第五福竜丸と同型木造船の、建造過程を解説・展示します。船大工道具や、設計に用いる製図道具、木造船の断面模型、蒸曲げ機の模型などの現物資料に加え、記録写真や絵本作家・二見正直さんによる書下ろしイラストなどを用いて解説します。



竣工式。神主が祝詞を上げる。同試験場提供

# 語りつぐ ビキニ

マーシャルの人びととの40年  
島田 興生

## ③ ジョン・アンジャイン元ロ ンゲラップ村長と会う

### 巡航船で行く太平洋

その当時、マーシャルの離島に飛行機は飛んでおらず、島に渡るには政府が運航する三〇四〇〇トンの貨物船を利用しなければならなかった。首都マジュロ島から出る船は乗客と貨物、コプラ（ヤシ油の原料）を買い付ける商人を乗せ、北西、北東、南航路などの数方向に分かれ、それぞれ十数島の島を二〜三週間かけて回る。

船には、乗客用のベッドは数人分しかないで、ほとん



ジョン・アンジャインさん（左）とネルソン・アンジャインさん。この日を機に2人の被ばくの語り部との30年におよぶ付き合いが始まった（クワジェリン環礁イバイ島のレストランで、1974）

どが甲板で寝起きするデッキ・パッセンジャーと呼ばれる乗客だ。これらの乗客は旅の仕方を十分に心得ていて、旅行用具以外に、食料や水、物の少ない離島に運ぶさまざまな雑貨、さらに、にわとりや豚まで持ち込むため、甲板には人と物があふれ、足の踏み場もないほどになる。

七月一七日午後六時半、巡航船「ヤップ・アイランドー」号は定員オーバーの二〇〇人の乗客を乗せ、マジュロ港の岸壁を離れた。船待ちすること九日間。しかし、二年

後の七六年には二日間、八一年には四日間も船待ちさせられたのに比べると、この時はまだついていたかも知れない。

船内は大混雑だが、乗客は私たちにヤシやパンの実をくれ、到着地での宿泊先まで心配してくれる親切で暖かい人ばかり。甲板の日かげで潮風に吹かれて本を読み、昼寝をし、夕方には舳先に行き、水平線に沈む雄大な夕陽を飽きることなく眺めて、日を過ごした。

### エニウエトク島民の避難先 ウジェラン島へ

出港三日目の二〇日午後四時、目的地のウジェラン島に着く。船の到着が遅れて、急病人の赤ちゃんはすでに亡くなっていた。このため、すぐ船は引き返すというので、急いで上陸し島内を一時間ほど歩いた。ヤシ林の中に小さな

ベニヤ作りの貧しげな住宅が数十戸、肩寄せ合って並んでいた。海岸に出てきた男たちのシャツはみんなボロボロ。飼育している豚のせいとか、ものすごい数の蠅にまわりつかれる。チョビさんやヨシタローさん（前号に登場）は余りの不便さに島を逃げ出したが、まだ四〇〇人もの島民が食料不足と医療不安のなかで暮らしていた。故郷を追い出し、島民を貧困と病魔に放り出した米国政府の冷酷さに怒りを覚えた。

### 核の語り部ジョン・アンジャインさんに会う

ウジェラン島を出た船は二日後にクワジェリン環礁イバイ島に着いた。そして、ビキニやロンゲラップ、マジュロにも向かわずに、船はイバイ島に腰を落ち着けてしまった。船長に聞いても今後の行き先は全く分からない。

イバイ島は東西に二五〇メートル、南北二キロの、一周に一時間もかからない砂洲のような小島。トタン屋根の平屋建て住宅が軒を並べ、ヤシの木もほとんど見当たらない。この

小島に、マーシャル諸島で二番目に人口が多い約九千人が暮らし、うち八〇〇人が隣りの米軍クワジェリン基地で働いている。

停泊の合間に、私たちはイバイ島に住んでいたロンゲラップ島が被ばくした時の村長ジョン・アンジャインさん（五二歳）を探した。狭い島なので、ジョンさんの家はすぐ見つかり、ちょうど島に滞在中の弟のネルソン村長（四九歳）にも会うことが出来た。

ヤシ油が匂う、狭い熱気のもった船室。二段ベッドに向き合って座ったジョンさんとネルソンさん。英語と片言の日本語でロンゲラップの「あの日」を穏やかに、怒りを込めて語った被ばくの一部始終は、すぐには信じ難いことばかりだったが、二〇年前の事を鮮明に記憶しているのにも驚いた。

私たちの船は、目的地を目前にのんびり腰を落ち着けているが、ロンゲラップ島はすぐ近くにあるのだという感慨が次第に強まってきた。（しまだ こうせい／フォト・ジャーナリスト）

## 市田真理

ビキニデー

ツアーのハイライトは、マ  
ーシャル諸島共和国政府主催  
の「ビキニデー」式典への参  
加です。三月一日は(Nuclear  
Victims Remembrance Day  
(核実験犠牲者追悼記念日)。  
NGO「RICHI-MI(リ  
ーチミー)」のメンバーやマ  
ジュロの小学生から大学生ま  
でが学校ごとに揃いのTシャ  
ツ姿で歌いながら式典会場ま

式典は政府関係者、在マ  
シャルの各国大使が列席し厳  
肅な雰囲気、核実験被害に  
対する祈りから始まります。

ヒルダ・ハイネ大統領、ピキニ環礁の被ばく者サイモン・ジャモアさんによる、核の被害に対して十分な補償がなされていない、ふるさとを奪われ、豊かな自然の恵みを破壊されたことへの怒りと悲しみを訴えるスピーチには会場から共感の拍手が湧き、胸を打たれました。

式典終了後、日陰を捜して



ハイネ大統領と孫娘と私。胸には  
福竜丸のバッジ

いると、ベンチにハイネ大統領を発見！「ラッキードラゴン（第五福竜丸）？もちろん知ってるわよ。」とニッコリ。第五福竜丸のポストカードと「七〇年記念バッジ」を差し上げました。

ビキニ環礁の人びとが暮らすエジツト島の教会、高校生たちの「平和学習」発表を聞

いたアサンブション教会、そして貴重な証言を聴かせてくださったリミヨ・エボンさんたちロンゲラップの女性たちの集まり……。どこでも祈りがあり歌がありました。喜びも悲しみも、そして苦難の歴史も歌に託し、祈ってきたことを感じます。私たちも歌で返礼しました。教会で歌うなんて人生で初めてのことでしたが、こんなにも真つすぐな気持ちで歌えたことも新鮮な体験でした。

高校生たちの報告でも、式典後に開催されたNuclear Legacy Conference（核被害遺産を検証する会議）でもjustice（正義・公正）という言葉が何度も聞かれました。

会議のテーマは「Charting a Journey toward Justice（『ヤステイスに向かう旅の航海図』）でした。後日、フォートジヤーナリストの豊崎博光さんにかがうと「『正当な権利』と訳すべきとのこと。被害や影響を過小評価することなく、被害者本位の正当な権利が認められていないことを、人びとが実感しているという証左なのでしょう。」

## 羅針盤

ビキニデーという言葉がエニウエトク環礁での核実験被害やブラボー以外の実験被害を、図らずも隠ぺいしてしまうことにも「Justiceが行使されない一因だと感じました。これは日本での被害を」第五

福竜丸だけ」と誤解することによく似ています。「六七回も実験があつたんですって？知らなかった」と驚かれたことには、こちらが驚きました。アサンブション高校の生徒たちの祈りは、そんな懸念を超越するものでした。「原爆による被害者のために わたしたちは祈ります。モルロア環礁の核実験被害者のために わたしたちは祈ります。クリスマス島の核実験被害者のために わたしたちは祈ります。美しい詩のように読み上げられたその言葉に、若い世代への希望を感じました。希望は羅針盤。私もまた「ピキニ事件」の Justice を見極める旅を続けます。

(いちだまり 学芸員)

マーシャルの旅の報告をします！  
第46回ビキニふくしま  
プロジェクト

2017年6月17日(土)午後1時～

夢の島マリーナ2階会議室  
参加費1000円(高校生以下無料)

- スライドと朗読  
「ふるさとにかえりたい」  
写真 島田興生  
朗読 羽生田有紀
- 詩劇「ロンゲラップの海」  
作・石川逸子
- マーシャル報告  
安田和也・市田真理  
(第五福竜丸展示館学芸員)
- 講演 井戸川克隆  
(前福島県双葉町長)

## 一通の手紙から

市田 真理



入院中の第五福竜丸の乗組員たちへ、昏睡状態の久保山愛吉さんへ、遺族へ…。当時全国からたくさんの方の励まし、お見舞いの手紙が届けられました。その一通。

封筒の表書きには「久保山愛吉様」とだけあり、切手も

貼られています。差出人は「第一病院結核病棟患者」となっています。

「久保山さん もう一度元気をとりもどしてください。必ず必ずよくなってください。私達は心から御全快をお祈り申し上げます。花束に

託して 結核病棟患者一同」第五福竜丸乗組員二三名中、一六名が入院していた東京国立第一病院からの手紙です。

長期入院を余儀なくされていた結核患者にとって、治療のめどが容易につかない福竜丸乗組員の闘病は、他人事ではなかったのだと感じます。国立清瀬病院の患者らは、第五福竜丸の被災が報道された直後から、水爆実験反対の意思表示をし、国連とアメリカ・ソ連・イギリス・カナダ



清瀬病院の患者たち

に手紙を出しています。イギリス大使館からは「原爆戦争の恐怖から世界を救う、軍備撤廃を求めるあなた方の要望を了承し、最善を尽くす努力を続けます」との返信がありました。国連やカナダ政府からも返事があり、翻訳されたものがベッドからベッドへと回し読みされ

# BOOK REVIEW

◆ビキニ被災ノート編集委員会／編  
太平洋核被災支援センター発行  
『ビキニ被災ノート―隠された60年の真実を追う』

一九五四年、米核実験「キヤッスルシリーズ」では六回の水爆実験が行われ、少なくとも九九二隻の日本漁船が放



射能汚染された魚を廃棄せざるを得なかったことが知られています。しかし、漁船員の被害については水揚げ港での検査以後、追跡調査されることはありませんでした。本書は、被災しながらも沈黙せざるを得なかった漁師たちを高知県で三〇年間にわたり、高校生、教員、市民、メディア等が調査した、三人の元漁師と遺族の記録です。労災申請、国家賠償請求の資料も収録され、ビキニ被災の課題を浮き彫りにします。

## ◆安細和彦著 駱駝舎

『私のラバさん酋長の娘―遥かなるマーシャル諸島』

本書は在マーシャル前日本大使（安細和彦氏）が、マーシャル諸島と日本との歴史的な繋がりを、戦争の記憶を紡ぐ小説です。タイトルは一九三〇年代に流行した歌謡曲「酋長の娘」の歌詞に基づくもの。太平洋戦争で戦病死した遺骨が未だ眠る太平洋の島々。この地を慰霊する巡拝団に参加することになった主人公が、



北海道から「南洋群島」に派遣された亡夫の記憶を確かめるように、この歌を口ずさむ場面に出会えます。現在のマーシャルで活躍する日本人や「日系」マーシャル人のことなど、こまやかに描かれています。

たようです。英文の手紙の四隅には画鋏の穴。病室に掲示されたのでしょうか。

清瀬からはまた、久保山さんの容体悪化が報じられた九月にもわら半紙の裏表にびっしりとしたためられた寄せ書きが送られました。ベッドからベッドへ：原水爆禁止署名簿と共に手渡されていたことも記されています。そして、そのさ中の計報。文面は一転、お悔やみの言葉になるのです。

「つい先日久保山さんが意識をとり戻されたと聞いた時、私も療養者は、どれほど勇気づけられたことでしょう。病室を回ってしたためてもらったこのお便りも今はむなしさを感じはとり除きようもございませんが、ベッドからベッドへとつながっていった祈りのころは、今も少しの変わりもございません。」

小樽、名古屋、奈良、大阪の病院からも、遺族に宛てて悲しみと悔しさを綴り出すような文面の手紙が届きます。そして平和へのあらたな誓いが綴られていくのです。

（いちだまり 学芸員）

## ワシントンからの通信②

核時代における  
歴史学とは

樋口 敏広

トランプ米大統領は暴言や失言が多いことで有名だが、その理由の一つとして挙げられているのが歴史に対する無知である。トランプは毎年二月に行われる「黒人の歴史を学ぶ月間」を記念する談話の中で、一八九五年に没した著名な奴隷制廃止論者がまだ生きていたかのように話して失笑を買った。しかし、中には笑うに笑えない噂もある。報道によると、トランプはロシアのプーチン大統領との電話会談中に米ロ新戦略兵器削減条約が議題になった際、側近にその条約とは何かと尋ねたという。

アメリカ人は歴史に強い関心がある。それは特に政治エリートの間で顕著である。連邦政府の主要な機関には歴史を調査し記録する専門の部局が必ずあり、歴代大統領も「歴史の教訓」を常に意識してきた。例えば、ケネディは歴史学者アーサー・シュレジンジャーを補佐官に任命して常に助言を求めた。もちろん、歴史から誤った「教訓」を学んだために失敗した例も多いが、それはむしろアメリカにおける歴史学の重要性を裏づけていると言える。

トランプ政権に象徴されるように、アメリカでも歴史の軽視が近年進んでいる。だが、それは政治エリートのみの責任ではない。歴史学者ジョー・グルディとデイビッド・アーミティジは共著『歴史学宣言』の中で、歴史学のタコツボ化によって政治エリートは経済学に助言を求めるようになったと指摘した。事実、核政策の分野でも数理モデルの応用が急速に進む一方、歴史学は等閑視されている。

広島島の原爆死没者慰霊碑の石碑には「安らかに眠って下

さい／過ちは繰り返しませぬから」と刻まれている。核軍縮の行方が不透明な今こそ、長期的・地球的な視野に立つて過去の過ちから学ぶような核の歴史学が必要ではないか。

\*



ひぐち としひろ／ジョージタウン大学外交学院助教。博士（歴史学）。専門はアメリカ外交史、環境史、科学史。大気圏内核実験による地球規模の環境放射能汚染に注目し、地球環境史の視点から冷戦と核軍備競争の展開を再検討している。第五福竜丸被ばく六〇周年の二〇一四年九月、第五福竜丸平和協会主催の市民講座にて「核実験と欧米市民・知識人」核開発への抑止」と題して講演。一五年には展示館でのラッセル・アインシュタイン宣言60年の展示に協力。

室戸の元漁労長から  
はえ縄の漁具寄贈さる

高知県室戸市の元マグロ漁師有志により集められた漁具が、第五福竜丸展示館に寄贈されました。

四月八日午後、室戸市にて展示館の安田和也、市田真理両学芸員が、マグロ船・第36合栄丸元漁労長の山田勝利さんからびん玉、はえ縄の幹縄、枝縄、釣り針など七点を受け取りました。また、船の位置を測る六分儀も贈られました。

高知県はカツオ・マグロ漁が盛んで、当時汚染マグロを水揚げした船は二七〇隻にのぼります。山田さんは、室戸



の船も被害を受けたが、みな黙ってしまった。被ばくしたとなれば船に乗れなくなるし家族の事もある。凶南丸のような捕鯨船も被災しています。漁師のなかでも「光を見た」とか「灰が船についていた」という話もあった。病気を抱えて悶々としながら亡くなっていた船員もいます。そうした漁師の事を伝えたいとの思いで、展示館への寄贈を思い立った。そつとしておけ、という人もいますけれど、伝えることが大事だと思つて陰ながら応援してくれる人もいます。室戸でこうしたことができるのも、亡くなった第二幸成丸（船首・山下昇一）の崎山船長や船首のおかみさんのおかげです、と語りました。

贈呈の会には、マグロ船の漁労長だった光本博輔さん、幸成丸船主の義弟、久保善則さん（元商船船長）、千代岡吉信さん（元捕鯨船員）も同席されました。

## 桜咲くころにつどう

展示館前の八重紅大島桜が満開を迎えた4月5日、東京地婦連の役員20名が来館し、学習と花見の会を開きました。

会は谷茂岡会長のあいさつではじまり、協会の安田事務局長から第五福竜丸が建造されて70年の歴史をたどりながら、米ソを中心とした核兵器開発が地球規模のフォールアウトをもたらせたこと、たくさんの日本漁船の被害やマーシャルの人びとの苦難の歩みを紹介しました。

学習会の後、桜の樹の下で昼食をとりながら懇談、谷茂岡会長は、福竜丸エンジンの展示実現から始まったお花見平和のつどいは終わりましたが、今年は皆さんで来ることができて核の問題を学び花も見事に咲いていてよかった、と語っていました。

## 焼津から西川一枝さん来館

第五福竜丸の船主・西川角市さんの長女であとを継いだ西川一枝さん(79才)が、3月26日家族とともに訪れました。この日は元乗組員の大石又七さんが講話のために来館し、久方ぶりがつ偶然の再会に驚かれながら、近況やほかの乗組員の様子、被ばく後の入院生活の話などを語り合っていました。

第五福竜丸の被災当時、一枝さんは高校2年、東京の病院に入院した乗



組員を毎月見舞いに行ったそうです。事件から3年後に父角一さんが病死しました。今も福竜丸という500トンの鋼鉄船でマグロ漁を続けています。

第五福竜丸のこと、事件当時のことはもう話すまいと思ったけれど、もう一度船を見たくなると語る一枝さん。付き添いの二人の娘さんは、展示パネルのなかに祖父の写真を見て感激しましたと語っておられました。

## 春の牛乳パック工作教室

3月29日、東京都生協連の皆さんが親子で展示館を訪れました。そろってマグロのお話を聞いた後、子どもたちは「牛乳パックで作ろう第五福竜丸工作教室」、大人は戦後の核兵器開発の経緯と水爆の被害について学芸員からの解説を聞きました。

子どもたちは苦戦しながらも自分だけの福竜丸を完成させ、思い思いの装飾を楽しんでいました。

完成後の進水式は展示館外のプールで行い、勢いよく進む様子に歓声が上がりました。

工作教室は夏休み企画として毎年開催しています。今回は昨年まで毎年4月に開催されていた「お花見平和のつどい」の代替として企画されました。

## 平和博物館国際会議でプレゼン

平和博物館国際会議がイギリス・北アイルランドのベルファスト市で4月10日から13日まで開かれました。日本からは10名余が参加し、第五福竜丸平和協会から高原孝生評議員(明治学院大学国際平和研究所所長)が出席しました。高原さんは、水爆開発における第五福竜丸をはじめ日本の被害、保存された福竜丸船体と展示館の活動をスライド構成で報告しました。同会議の報告は次号に掲載します。

## 70年記念グッズ紹介

古希を迎えた第五福竜丸を記念して缶バッジを製作しました。サイズは大(57mm)と小(32mm)の2種類、絵柄は8種類です。価格は大が300円、小が200円です。館内ショップにて販売中です。第五福竜丸展示館を訪れた記念やお土産にいかがでしょうか。



## 築地にマグロ塚をつくる会 朗読と講演会

忘れまい! ビキニ、そしてフクシマ

6月4日(日)午後1時半~4時半  
夢の島マリナー会議室

■歌と朗読『ロンゲラップの海』  
そしてフクシマ

■講演  
西村奈緒美(朝日新聞記者)  
大石又七

■参加費 1000円

## 企画展「この船をつくろう」イベント 船大工・匠の技を視るつどい

7月23日(日)午後2時~

第五福竜丸展示館内 参加無料

木材を削る船大工道具チョンナや板と板を接合する落とし釘などの実演とお話

■実演 木村九一(はやぶさ丸改修設計者)

■お話 吉岡雄毅(元強力造船所工場長)

必見です!